

使用者の声

「総合殺菌剤 フロンサイドSC」の使用感について、インタビュー！
生産者様の声を紹介いたします。

総合殺菌剤
石原 **フロンサイド**[®]
SC

【かんしょ】 鹿児島県 本田さん

基腐病を抑えて品質と収量が向上。 収穫までの不安を期待に変える、 フロンサイド SC の確かな実力。

鹿児島県でかんしょを栽培している本田さんは、青果用品種の「べにはるか」、焼酎加工用で「コガネセンガン」「みちしずく」、でんぷん原料用では「シロユタカ」を13haで生産しています。6年前にお父様から農業経営を引き継ぎ、現在は就農9年目。「うまくいく年もあればダメな年もあります。かんしょは土の中にあるので、収穫するまで状態が分からないという不安と常に戦っています」と、農業の難しさを感じながら、日々かんしょ作りに励んでいます。

使い始めてから発病株が減少。 仕分ける手間がなくなり作業効率もアップ

近年のかんしょ栽培について何うと、「4～5年前から基腐病が発生して、この病害に感染してしまうと収量が落ちて品質も低下してしまうので、心配は尽きません」と、基腐病への不安を話してくれました。基腐病対策として様々な試行錯誤を経て、2年前から防除の軸として使用しているのがフロンサイドSCです。使用のきっかけは、「フロンサイドSCの『散布』登録が取れたので、JAやメーカーとも相談しながら使うようになりました。それからは発病株が減り、収量の向上を実感しています。また、収穫の際に被害に遭ったかんしょを仕分ける必要がなくなったので、作業効率も良くなりました」とフロンサイドSCの効果を感じているそうです。



品種ごとの生育の違いを見極めて散布。 苗にもこだわり、徹底的に基腐病を防除。

フロンサイドSCの使用方法を何うと、「植え付けの3～4週間後に1回目の散布を行い、さらに3週間ほどあけてから2回目の散布を行います。2回目は、蔓が畝間に降りる前にしっかりと散布するように気をつけていて、品種によって生育スピードに違いがあるため、最適な散布のタイミングを見極めるようにしています。それと、10aあたり100Lの散布（フロンサイドSC 1000倍希釈）を心掛けています」と教えてくれました。また、薬剤での防除以外にも基腐病対策には力を入れており、ウイルスフリー苗を導入して苗作りの段階から感染に備えているそうです。

生産者としての喜びについて、「基腐病が減ってきて、収量、収益性が上がってきていることが一番嬉しい」と笑顔で話す本田さん。「かんしょ作りは正解がありません。やり方次第でより良い方法が生まれていくと思うので、これからもチャレンジし続けて品質の良いかんしょ作りをしていきたいです」と、今後の目標を力強く語ってくれました。

※取材時(2025年8月)における個人の感想をもとに作成しています。

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。



Local Insight, Global Impact

石原バイオサイエンス株式会社
〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号



「使用者の声」は
webでもご覧
いただけます